

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	イ	地域の産業を支える人材と雇用の確保	
	1	しまの新産業創出と雇用の確保	
事業名	漁業就業者確保育成対策事業		
担当課名	水産課	所属長名	石 司 泰 栄
関係課名			
事業の目的	漁業技術の習得等を実施する新規漁業者に対する生活費や資材購入費の助成と指導者に対する謝礼金の助成を行い、漁業後継者の育成・確保を図る。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定着促進研修事業 潜水・曳縄漁業に加えタコツボ漁を開始し漁業への定着を確実なものとする。</li> <li>・ 技術習得支援事業 新規に漁業へ就業する見込みがある者に対し、地元漁業者の元で漁業研修を受けることで、漁業技術の習得と漁業への着業促進を図る。</li> </ul>		
事業の実績・取組状況	漁業技術の向上及び後継者育成のため、6,416千円の助成を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定着促進研修事業     1名     896千円</li> <li>・ 技術習得支援事業     4名     5,520千円</li> </ul>		
成果（できたこと）	漁業後継者の育成に寄与した。		
課題（できなかったこと）	漁業者の減少に歯止めがかからない。		
担当課評価	B	十分な金額ではないが、生活費等を助成することにより、漁業に就業希望がある者に対して後押しになっている。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	漁業が継続していけるだけの漁業所得の確保と、町外出身者があった場合の居宅の確保が必要。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	イ	地域の産業を支える人材と雇用の確保	
	1	しまの新産業創出と雇用の確保	
事業名	ながさき森林づくり担い手対策事業		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	林業の担い手を確保するとともに、林業者の経営の安定を図る。		
事業の内容	林業者に対して、福利厚生費（社会保険）の助成を行う。		
事業の実績・取組状況	林業組織の育成をするため、林業従事者（担い手）の社会保険等の負担を助成した。 五島森林組合上五島支所 11名 4,235千円		
成果（できたこと）	林業従事者（担い手）の社会保険等の負担を助成し、林業従事者の継続雇用を図り、安定的な雇用に寄与した。		
課題（できなかったこと）	技術をもった対象者数名が高齢化しているため退職後の担い手不足が生じる恐れがある。新規の担い手は、林業技術取得に数年を要するため、早期の雇用と技術取得が必要である。		
担当課評価	B	林業従事者の継続な雇用が図られ、安定的な雇用に繋がっており、林業組織育成のためにも、継続することが必要。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	島の森再生事業などにより、森林資源の活用促進を図り、林業担い手の後継者対策のため、早期の新規雇用を実施する。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	イ	地域の産業を支える人材と雇用の確保	
	1	しまの新産業創出と雇用の確保	
事業名	若者新規就労支援事業【新規】		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳 哲也
関係課名			
事業の目的	若者の減少が著しいなか、町内での就労を積極的に推進し、若者を呼び込み活気あるまちづくりを推進することを目的とする。		
事業の内容	受給資格登録申請日において40歳未満の者で、町内の事業所等に新規就労し、通算36月以上の就労実績がある者に対し、奨励金10万円を交付する。		
事業の実績・取組状況	制度要綱を制定（H28.4.1施行）し、町内世帯回覧及び町公式サイトにて、支援制度の内容を周知した。		
成果（できたこと）	制度要綱を制定し、町内世帯回覧及び町公式サイトにて、支援制度の内容を周知できた。		
課題（できなかったこと）	今後、若者への定期的な周知が必要。		
担当課評価	B	制度要綱を制定（H28.4.1施行）し、町内世帯回覧及び町公式サイトにて、支援制度の内容を周知できた。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	若者が町内事業所等に新規就労するきっかけの一つとなるよう定期的な周知を行う。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	イ	地域の産業を支える人材と雇用の確保	
	1	しまの新産業創出と雇用の確保	
事業名	椿による五島列島活性化特区事業〈主：まち〉		
担当課名	農林課	所属長名	下山透
関係課名			
事業の目的	椿油の増産のみならず椿の木全てを有効に活用して地域が一体となり「椿関連産業」の活性化に取り組み、離島の活性化の起爆剤として地域に根ざした地域密着型の6次産業化を目指すことを目的としている。また、その椿実から採れる油の製品の生産増大・販路拡大を通じて、就業の機会の創出と地域活性化を図る。		
事業の内容	自生椿林整備、椿加工場建設、椿油・関連商品開発促進		
事業の実績・取組状況	自生椿林内作業道整備 2.8km 自生椿林改良 34.24ha 新上五島町つばき木工房 保管用倉庫、レーザー加工機整備 木工講習会開催 4回 木工技術振興会会員の先進地視察研修 つばき苗支給 2,777本（成人式記念、荒廃農地復旧など） などを実施 67,495千円		
成果（できたこと）	つばき林の除伐・断幹により、森林が持つ機能回復を図るとともに優良つばき林育成に繋がった。 木工技術振興会では保管用倉庫、レーザー加工機を導入し施設の充実を図るとともに、県外から講師を招聘して講習会を開催し、会員の木工技術のレベルアップが図られた。 つばき苗支給により、「日本一の椿の島づくり」を町内外にアピールできた。		
課題（できなかったこと）	耕作放棄地への苗木植栽が少なかった。		
担当課評価	C	耕作放棄地の解消が進んでいない。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	耕作放棄地への植樹を促進するため、高齢者でも椿実を収穫できるような整備を検討する必要がある。		
委員評価	C	2次評価のとおり（まち分野で評価）	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする		
具体的な施策	イ 地域の産業を支える人材と雇用の確保		
	1 しまの新産業創出と雇用の確保		
事業名	海洋観光による雇用創出事業【新規】		
担当課名	観光商工課	所属長名	安 永 佳 秀
関係課名	水産課		
事業の目的	漁業及び漁村をはじめ、新上五島町の地域振興と産業の活性化に資するため、上五島の豊かな海を活かし、観光商工分野と漁業との連携を強め、漁業と併せて、遊漁、海洋レクリエーション、漁業体験など、「海業」を効果的かつ総合的に推進することを目的とする。		
事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光商工分野と漁業との連携を図るための協議会の立ち上げ</li> <li>・生簀を利用した水族館事業</li> <li>・マリンアクティビティを活用した体験滞在型プログラムの開発・運営等</li> </ul>		
事業の実績・取組状況	平成28年度の協議会立ち上げに向け、関係機関との事前打ち合わせに取り組んだ		
成果（できたこと）	一部関係機関ではあるが事前打ち合わせを行い、平成28年度の協議会立上げの準備ができた。		
課題（できなかったこと）	平成27年度中に関係機関との事前調整を行う予定であったが、一部関係機関のみとなり全ての関係機関と事前調整を行うことができなかった。		
担当課評価	B	関係機関との事前調整において、多少の遅れがあるものの、ほぼ目標どおりに進捗しており継続して事業を進捗する。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	平成28年度中の協議会立ち上げを目標にし、事業内容の精査を行い事業実施に向け積極的な活動を行っていく。		
委員評価	B	2次評価のとおり	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分	
基本目標	1 しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする
具体的な施策	イ 地域の産業を支える人材と雇用の確保
	1 しまの新産業創出と雇用の確保
事業名	医師確保対策特別補助事業（臨床研修医支度助成金支給）
担当課名	健康保険課
	所属長名 荒木 宣貴
関係課名	
事業の目的	長崎県病院企業団が管理運営する長崎県上五島病院に医師臨床研修制度により勤務し、臨床研修をしようとする医師に対し、臨床研修医支度助成金を支給することにより、新上五島町における医師の確保を図り、もって医療サービスの向上に資することを目的とする。
事業の内容	臨床研修医の赴任時の必要経費等助成（1名30万円を上限）
事業の実績・取組状況	該当者なし 平成27年度実績額 0円
成果（できたこと）	なし
課題（できなかったこと）	この事業は、離島の医療機関で臨床研修をし、離島医療に関心をもっていただいた後に、本町の正規医師になっていただくことを目的としている所もある。それを考えると、最終的な医師確保には一歩届いていない状況である。
担当課評価	B この事業により、平成27年度は実績はないものの、平成28年度は1名、平成29年度には3名の臨床研修が予定されている状況であり、今後も事業を継続していくことが、離島医療医師確保に繋がるものと考えます。
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	今後も継続してこの事業は実施していくべきと考えますが、その後の正規医師雇用をどのように展開していくかが課題だと考える。新規事業の創出も視野にいれ検討しなければならないと考える。
委員評価	B 2次評価のとおり

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。



## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	イ	地域の産業を支える人材と雇用の確保	
	1	しまの新産業創出と雇用の確保	
事業名	産業サポートセンター事業【新規】		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳 哲也
関係課名			
事業の目的	関係機関と連携し、就職・就漁（農）などの支援・相談及び定住に関する相談窓口を新たに開設し、創業数の増や生産額の増、雇用者の増等につなげる。		
事業の内容	安定的な雇用の創出等のため、町内の事業所等の実態を把握し、不足している支援等に向けた対策の構築を目指す。 起業家教育や新商品開発などに対し、専門家による営業戦略やスキルアップに向けたアドバイスの機会を設け、雇用拡大や産業強化につなげる。 町内の空き家・空き店舗の情報をとりまとめて、定住希望者等に情報提供する。		
事業の実績・取組状況	県産業振興財団と連携して「創業スタートアップセミナー」5回コースを開催し、135人の受講があった。創業希望者、第二創業希望者、事業拡張、雇用相談、商品開発・販路拡大、情報発信、収益UPに関し、26人延べ52件の相談を受けた。 机上での資料整理による町内事業所数（1,386件）の把握を行った。 センター運営費 6,826千円		
成果（できたこと）	県産業振興財団の協力により、セミナー開催や各種相談により、創業希望者の意識向上に繋がった。		
課題（できなかったこと）	センター長1名及び支援員3名体制がとれなかった。（支援員2名のみ）		
担当課評価	C	産業サポートセンターを開設し、セミナーの開催や相談対応が出来た。ただし、センター長1名・支援員3名の計画に対し、支援員2名での運営となり、十分な相談体制をとれなかった。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	十分な支援体制の確保とセンター職員のスキルアップ。		
委員評価	B	本町の人口減少は、将来的にも厳しいと聞いており、特に高校生が卒業後、町内で就職する場がないため、雇用の場を生み出していくためにも、事業を継続すべき。 空家バンク登録にあたり、個人所有の物件に限定されているが、雇用のためにも漁協所有の施設なども対象範囲に加えるよう検討すべき。また、町営の教員住宅や単独住宅の有効活用や公営住宅法の各種要件緩和の陳情を行うべき。（H28.07.21開催の新上五島町人口減少対策推進・検証会議で評価済み）	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。
- B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。
- C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。
- D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。
- E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。

## 新上五島町まち・ひと・しごと創生総合戦略 事務事業評価シート

平成27年度分			
基本目標	1	しまにしごとをつくり、しまで安心して働けるようにする	
具体的な施策	イ	地域の産業を支える人材と雇用の確保	
	1	しまの新産業創出と雇用の確保	
事業名	創業支援奨励事業【新規】		
担当課名	総合政策課	所属長名	小柳 哲也
関係課名	※H28より観光商工課		
事業の目的	雇用機会が特に不足している本町においては、新たな企業が立ち上がることは、雇用の場の創出でもあり、新たな雇用につながる。 創業時の初期投資や人材研修は、事業発展に大きく影響することから、新たに支援制度を制定し、平成27年度から、その初期投資費用などの一部を支援し、より多くの雇用につなげたい。		
事業の内容	申請年度内に新規雇用又は雇用創出が見込まれる新規創業等を行う者に対し、①初期投資費用等の一部、②新規雇用奨励金、③創業時人材育成費用の一部、④特産品開発費用の一部を支援する。		
事業の実績・取組状況	IT関連企業であるAOSA株式会社（東京本社）の100%出資による株式会社D-projectが町内で創業するにあたり、初期投資費用の一部として3,000千円を支援した。		
成果（できたこと）	株式会社D-projectの創業により、30名（将来計画雇用数）の雇用の場の確保ができた。		
課題（できなかったこと）	H27年度中に20名の雇用を計画していたが、創業時期が年度末にずれ込んだため、4名でのスタートとなった。創業後1年以内に10名、2年以内に20名を目指す。		
担当課評価	B	支援制度を新設し、創業者の支援ができた。ただし、創業時期が年度末にずれ込んだことにより、創業時の雇用者数が予想を下回った。	
課題の解決策（目標（KPI）向上に向けた今後の取組方法）	株式会社D-projectと連絡を密にして、人材の確保等に協力する。また、産業サポートセンターでの創業相談等により、支援対象者を把握し、創業時の負担を軽減することで、雇用の場の創出を進める。		
委員評価	B	戦略策定時の提案どおり、創業時の初期投資などを支援は、雇用の場の確保のためにも必要。今後も事業を継続すべき。（H28.07.21開催の新上五島町人口減少対策推進・検証会議で評価済み）	

- A：目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する。  
 B：ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。  
 C：目標をやや下回っており、要因の分析を要する。  
 D：目標を大きく下回っており、要因の分析と目標値の見直しを要する。  
 E：目標値または事業自体の抜本的見直しを要する。